

# 2024年度 (2025年3月期) 第1四半期決算説明資料 (IFRS)

IHI

2024年8月6日

株式会社 IHI



株式会社IHI原動機にて発生したエンジンの試運転記録に係る不適切行為（2024年4月24日開示）については、本年6月4日に中間報告を国土交通省へ提出しました。外部専門家により組織した特別調査委員会の調査を継続しています。

また、新潟トランス株式会社で製造・販売したロータリ式道路用除雪車搭載の除雪装置に係る試験での不適切行為（2024年7月31日開示）については、現在事実関係の調査及び原因究明を進めています。

対象となる製品を納入したお客さまに真摯に対応してまいります。

なお、これらの件による業績への影響につきましては、現在精査中であり、影響が見込まれる場合には速やかに公表いたします。

<b>1. 2024年度第1四半期 連結決算</b>	
サマリー.....	5
ハイライト.....	6
実績概要.....	7
営業利益増減要因.....	8
連結財政状態計算書.....	9
キャッシュ・フローの状況.....	10
<b>2. 2024年度 連結業績見通し</b>	
ハイライト.....	12
見通し概要.....	13
営業利益増減要因, 報告セグメント別内訳.....	14
民間向け航空エンジンの売上収益およびスペアパーツ取扱高の推移....	15
中核事業におけるライフサイクルビジネス (LCB) の状況.....	16
<b>3. Appendix.....</b>	<b>17</b>

※各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

# 2024年度第1四半期 連結決算



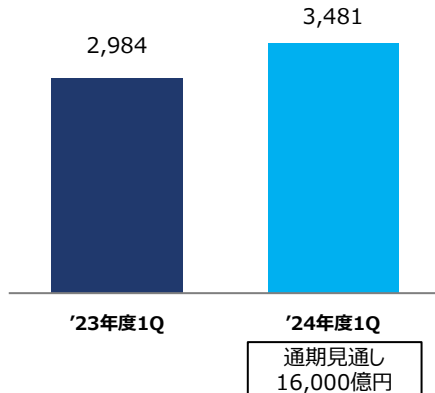
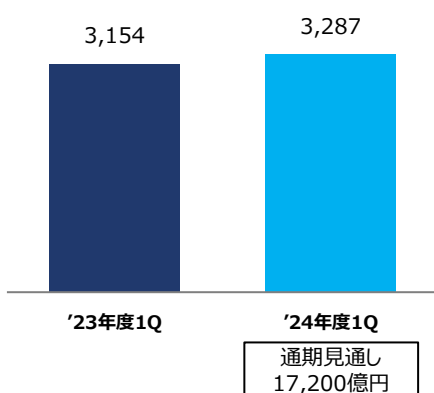
# 2024年度第1四半期 連結決算 サマリー

## 受注高

## 売上収益

## 収益性関連指標

(単位：億円)

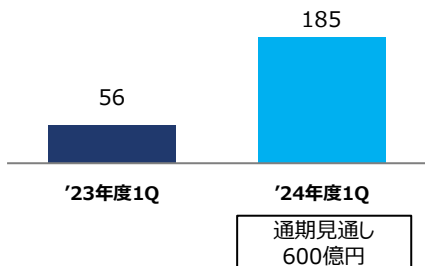
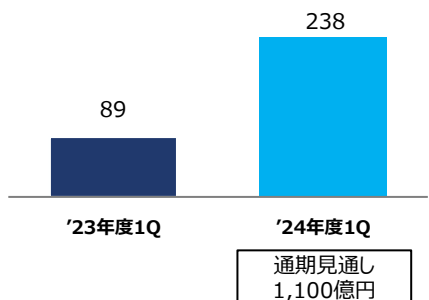


<b>営業利益</b> 238億円 (YoY +149億円)	<b>営業利益率</b> 6.8% (YoY +3.8pts)
<b>EBITDA</b> 411億円 (YoY +152億円)	<b>営業CF</b> 44億円 (YoY +639億円)

## 営業利益

## 親会社の所有者に帰属する四半期利益

## 財務健全性指標



<b>有利子負債</b> 5,764億円 (対前年度末+21億円)	<b>D/Eレシオ</b> 1.36 (対前年度末▲0.07pts)
<b>親会社の所有者に 帰属する持分</b> 3,993億円 (対前年度末+233億円)	<b>親会社所有者帰属 持分比率</b> 18.6% (対前年度末+0.7pts)

民間向け航空エンジンが成長ドライバーとなり、増収増益を達成

## (主なポイント)

受注高		<ul style="list-style-type: none"><li>民間向け航空エンジンにおいて新製エンジン・スペアパーツが伸長し、大きく増加</li><li>アジア拠点EPC（※）で、前期大型案件受注の反動により減少</li></ul>
売上収益		<ul style="list-style-type: none"><li>民間向け航空エンジンの新製エンジン・スペアパーツの販売増加</li><li>アジア拠点EPCにおける大型発電所プロジェクトの工事進捗による増収</li></ul>
営業利益		<ul style="list-style-type: none"><li>民間向け航空エンジンで、スペアパーツの販売が貢献し、大きく増益</li><li>車両過給機では販売価格交渉の進捗遅れが発生し、採算が悪化</li></ul>
営業キャッシュ・フロー		<ul style="list-style-type: none"><li>EBITDAの着実な成長に加え、工事代金の回収が順調に進捗し、黒字化</li></ul>
PW1100G-JM エンジン追加検査 プログラム影響		<ul style="list-style-type: none"><li>影響の見積り総額（USD）に変動なし。ただし、円安により円換算額は増加</li><li>エアラインへの補償金などプログラムに関連する支出が開始</li></ul>

（※）アジア拠点EPC（Engineering / Procurement / Construction）

：アジア、中東、アフリカにおける各種電力・産業プラントの建設、保守・メンテナンス事業

# 2024年度第1四半期 連結決算 実績概要

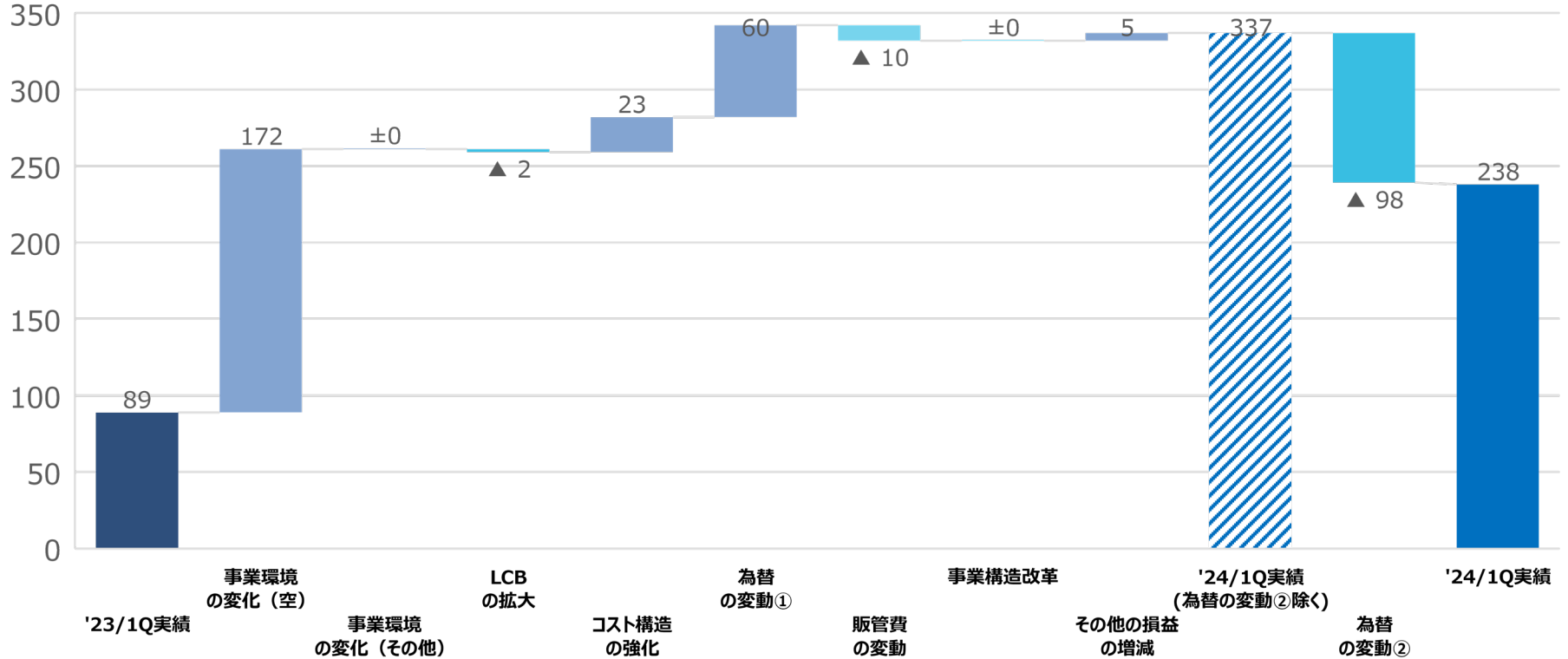
(単位：億円)		'23年度1Q	'24年度1Q	増減	
受注高		3,154	3,287	(4.2%)	132
売上収益		2,984	(※) 3,481	(16.7%)	497
営業利益 (率)		(3.0%) 89	(6.8%) 238		149
金融損益等	為替差損益	69	82		13
	持分法による投資損益	8	23		14
	その他の金融損益	▲39	▲27		12
	合計	38	78		40
税引前四半期利益 (率)		(4.3%) 127	(9.1%) 316		189
親会社の所有者に帰属する四半期利益 (率)		(1.9%) 56	(5.3%) 185		129
EBITDA (率)		(8.7%) 258	(11.8%) 411		152
営業キャッシュ・フロー		▲595	44		639
売上平均レート (USD)		137.44	157.79		20.35
期末日レート (USD)		144.86	160.95		16.09

(※) PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムに関する為替評価替えによる影響 ▲98億円を含む

# 2024年度第1四半期 連結決算 営業利益増減要因

## 民間向け航空エンジンを中心に前年同期比で大幅な増益

(単位：億円)



### <主な変動要因>

- 事業環境の変化：民間向け航空エンジンにおいて、航空旅客需要が堅調に推移、スペアパーツ販売が増加
- LCB拡大：カーボンソリューションや原子力の案件端境期にあるが、前年同期並みの水準を確保
- コスト構造の強化：民間向け航空エンジンや、橋梁・水門事業における採算改善により、増益
- 為替の変動①：主に民間向け航空エンジン売上における円安効果
- 為替の変動②：前期に計上したPW1100G-JMエンジンの追加検査プログラム関連の外貨建債務について、円安による減益影響

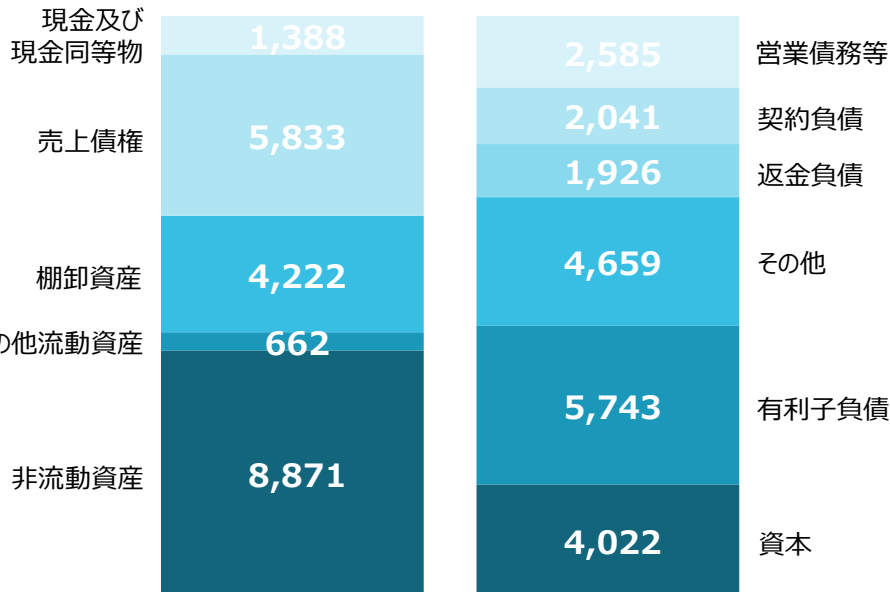


# 2024年度第1四半期 連結決算 連結財政状態計算書

‘23年度末

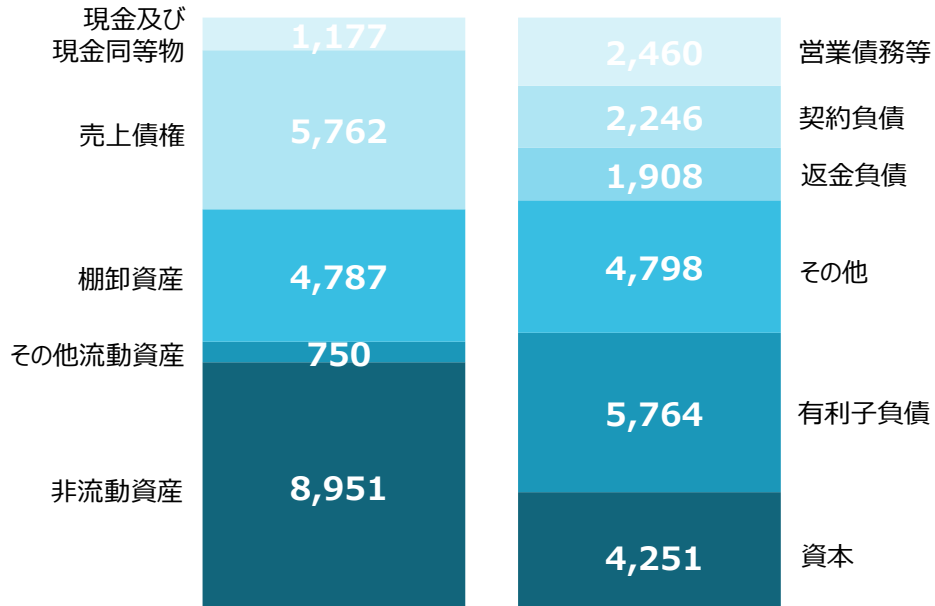
資産合計：20,978億円  
D/Eレシオ：1.43倍  
親会社所有者帰属持分比率：17.9%

(単位：億円)



‘24年度1Q末

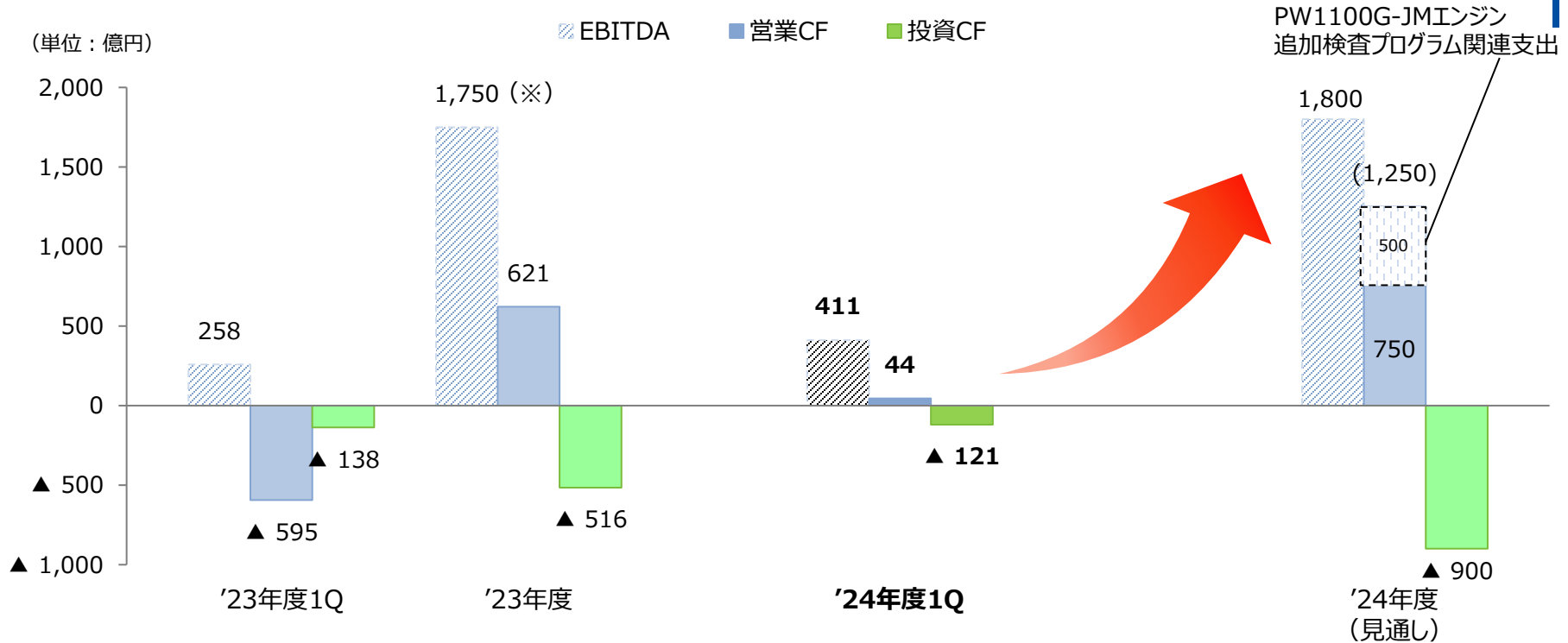
資産合計：21,428億円 (+450億円)  
D/Eレシオ：1.36倍 (▲0.07pts)  
親会社所有者帰属持分比率：18.6% (+0.7pts)



## <主な変動要因>

- 資産：民間向け航空エンジンにおける増産対応や、前年度に受注した防衛事業の進捗等により棚卸資産が増加した一方、海外案件の代金回収が順調に進んだことなどにより、売上債権が減少
- 負債：防衛事業や民間向け航空エンジンでの前受入金の促進により、契約負債が増加
- 資本：当四半期利益により親会社所有者帰属持分比率が改善

# 2024年度第1四半期 連結決算 キャッシュ・フローの状況



(※) E&C訴訟和解影響, PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムに関する損失計上を除く

## <主な変動要因 (対前年同期) >

- 営業CF**：EBITDAの着実な増加に加え、工事代金の回収が順調に進捗したことにより、大幅に営業CFが改善し、黒字化を達成  
 年度の立ち上がりは、航空・宇宙・防衛セグメントを中心に棚卸資産が増加する傾向があり、想定どおり年度後半の完成・引き渡しを通じて、運転資本の圧縮を進め、営業CFの見通しを達成していく
- 投資CF**：1Q実績は当初想定どおり。年度後半にかけて成長・育成事業を中心に投資を実行

# 2024年度 連結業績見通し

過去最高益となる営業利益1,100億円の達成に向け、着実に進捗

(※) 前回見通しから変更なし。

なお、前回見通しは、2024年5月8日公表の業績予想数値。以下のスライドも同じ。

## (主なポイント)

<b>受注高</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>民間向け航空エンジンは新製エンジン・スペアパーツともに拡大</li><li>好調を維持するカーボンソリューションや防衛事業は、前年度を超える水準を見込む</li></ul>
<b>売上収益</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>民間向け航空エンジンは当初の想定どおり、旅客需要の伸びに伴い拡大基調</li><li>受注が増加している防衛事業の増産体制を強化</li><li>LCBについても前回の見通しから変更なし。案件の端境期にあるが前年度並みの水準を見込む</li></ul>
<b>営業利益</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>足元堅調な民間向け航空エンジンが、通期においてもドライバーとして利益をけん引</li><li>中核事業では原価先行算入分の刈り取りやコスト構造強化の効果を見込む</li><li>車両過給機の構造改革など、事業ポートフォリオ変革を推進</li><li>不動産売却による財務基盤の早期回復を計画どおり進める</li></ul>
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>全社を挙げて取り組んでいる運転資本削減の効果を見込み、前回の見通しから変更なし</li></ul>
<b>PW1100G-JM エンジン追加検査 プログラム影響</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>引き続きプログラムパートナーとともに整備能力増強を図り、地上駐機数の低減に向けた対応を進める</li><li>プログラムに関連する支出は、2Q以降に本格化する見込み</li></ul>

# 2024年度 連結業績見通し 見通し概要

(単位：億円)	'23年度	'24年度 前回見通し	'24年度 今回見通し	増減 今回 - 前回
受注高	13,768	17,200	17,200	-
売上収益	13,225	16,000	16,000	-
営業利益（率）	(▲5.3%) ▲701	(6.9%) 1,100	(6.9%) 1,100	-
税引前当期利益（率）	(▲5.5%) ▲722	(6.3%) 1,000	(6.3%) 1,000	-
親会社の所有者に帰属する当期利益（率）	(▲5.2%) ▲682	(3.8%) 600	(3.8%) 600	-
配当（年間（中間/期末））	100円/株 (50円/50円)	100円/株 (50円/50円)	100円/株 (50円/50円)	-
EBITDA（率）	(0.0%) 6	(11.3%) 1,800	(11.3%) 1,800	-
ROIC	▲4.9%	8.3%	8.3%	-
ROE	▲16.9%	15.5%	15.5%	-
前提為替レート（USD）	145.27	140.00	140.00	-

（参考）為替感応度（為替相場の1円変動による、第2四半期以降の営業利益への影響額）：USD 10億円

※PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムの為替影響は、前年度末（151.26円/USD）の水準で変更なし  
（為替感応度は当該影響を除く）

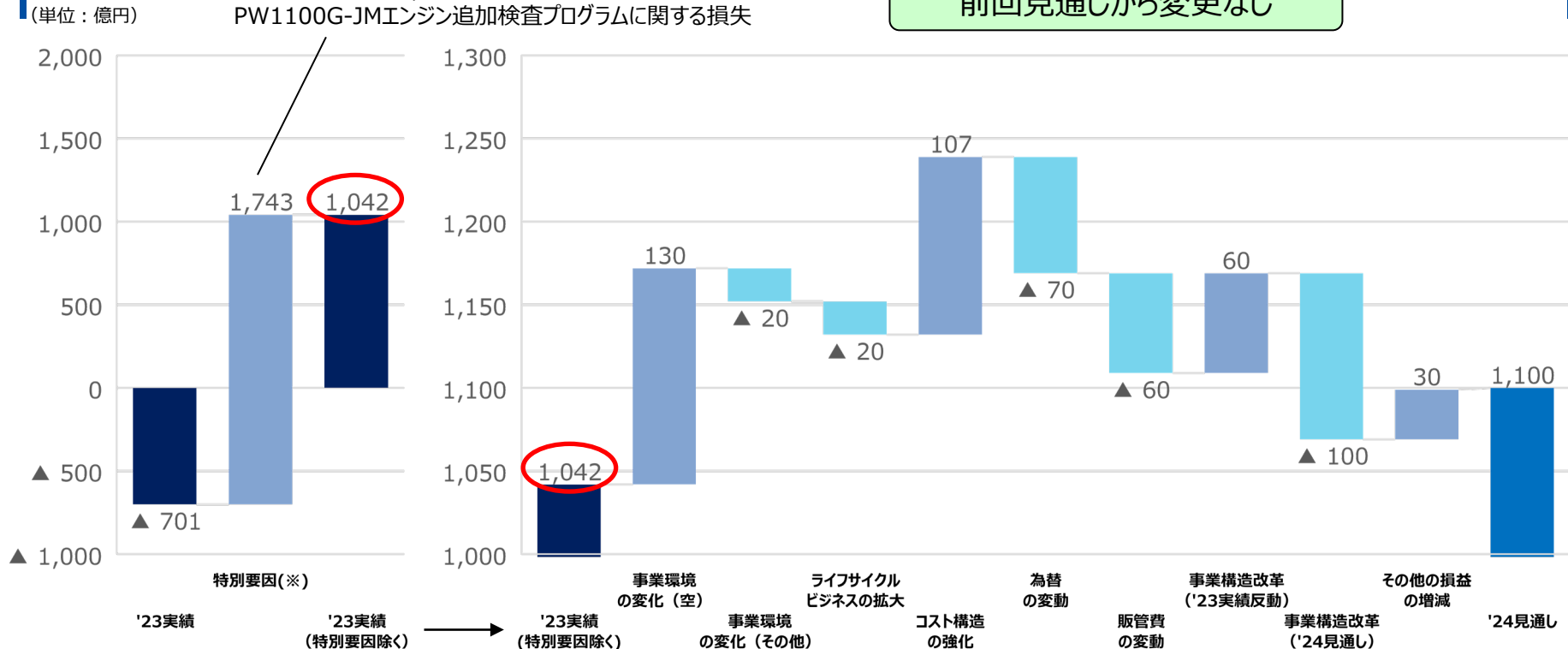
(単位：億円)	'23年度	'24年度 前回見通し	'24年度 今回見通し	増減 今回 - 前回
営業キャッシュ・フロー	621	750	750	-
投資キャッシュ・フロー	▲516	▲900	▲900	-
フリーキャッシュ・フロー	104	▲150	▲150	-

# 2024年度 連結業績見通し

## 営業利益増減要因，報告セグメント別内訳

(※) '23年度に計上した，E&C訴訟和解影響およびPW1100G-JMエンジン追加検査プログラムに関する損失

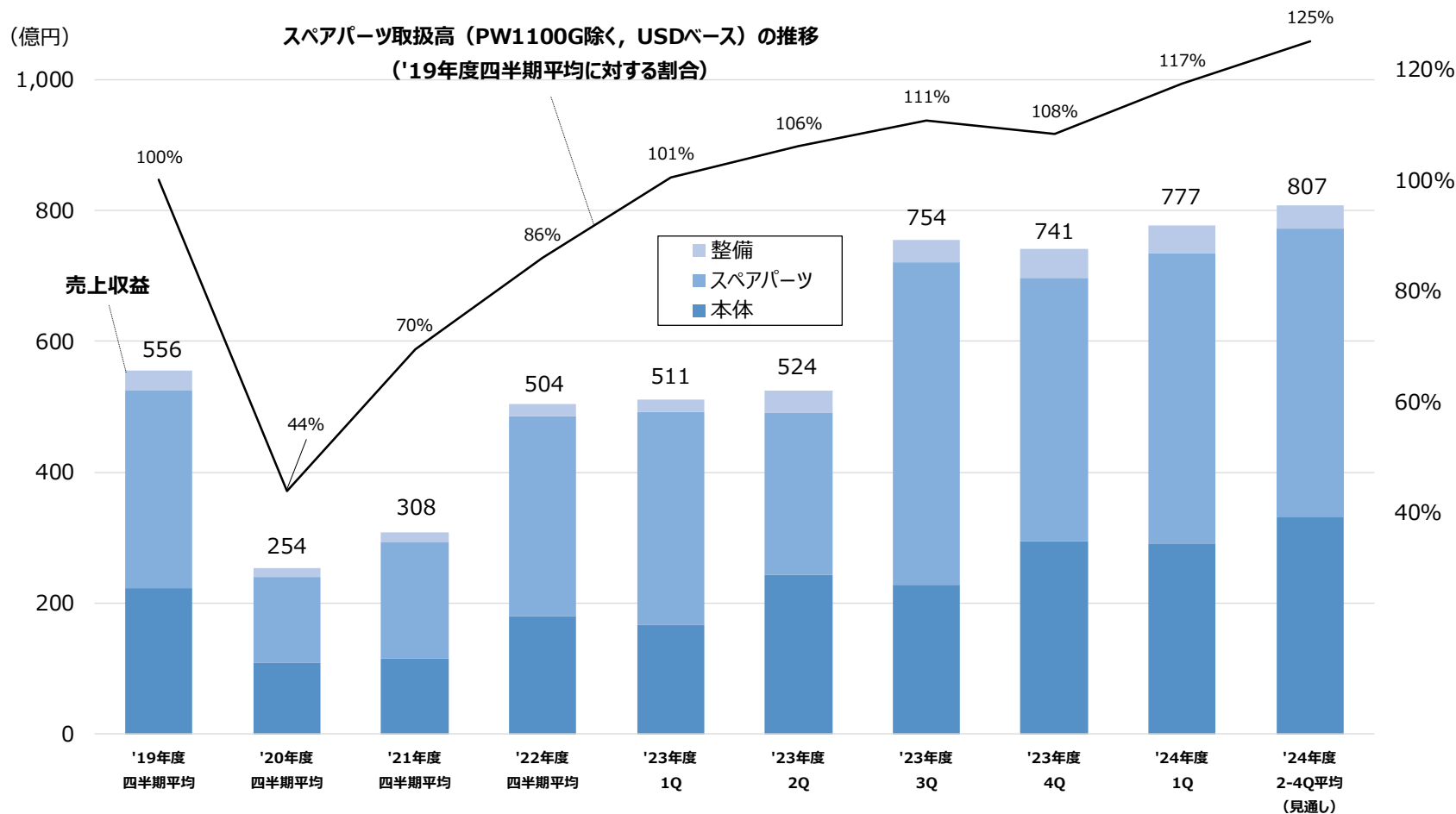
前回見通しから変更なし



	受注高		売上収益		営業利益	
	'23年度	'24年度	'23年度	'24年度	'23年度	'24年度
資源・エネルギー・環境	3,101	4,000	4,049	4,200	177	280
社会基盤	1,593	1,800	1,709	1,700	150	210
産業システム・汎用機械	4,748	4,800	4,661	4,700	127	220
航空・宇宙・防衛	4,237	6,600	2,704	5,400	▲1,028	660
その他	87	0	100	0	▲127	▲270
合計	13,768	17,200	13,225	16,000	▲701	1,100

# 2024年度 連結業績見通し

## 民間向け航空エンジンの売上収益およびスเปアパーツ取扱高の推移



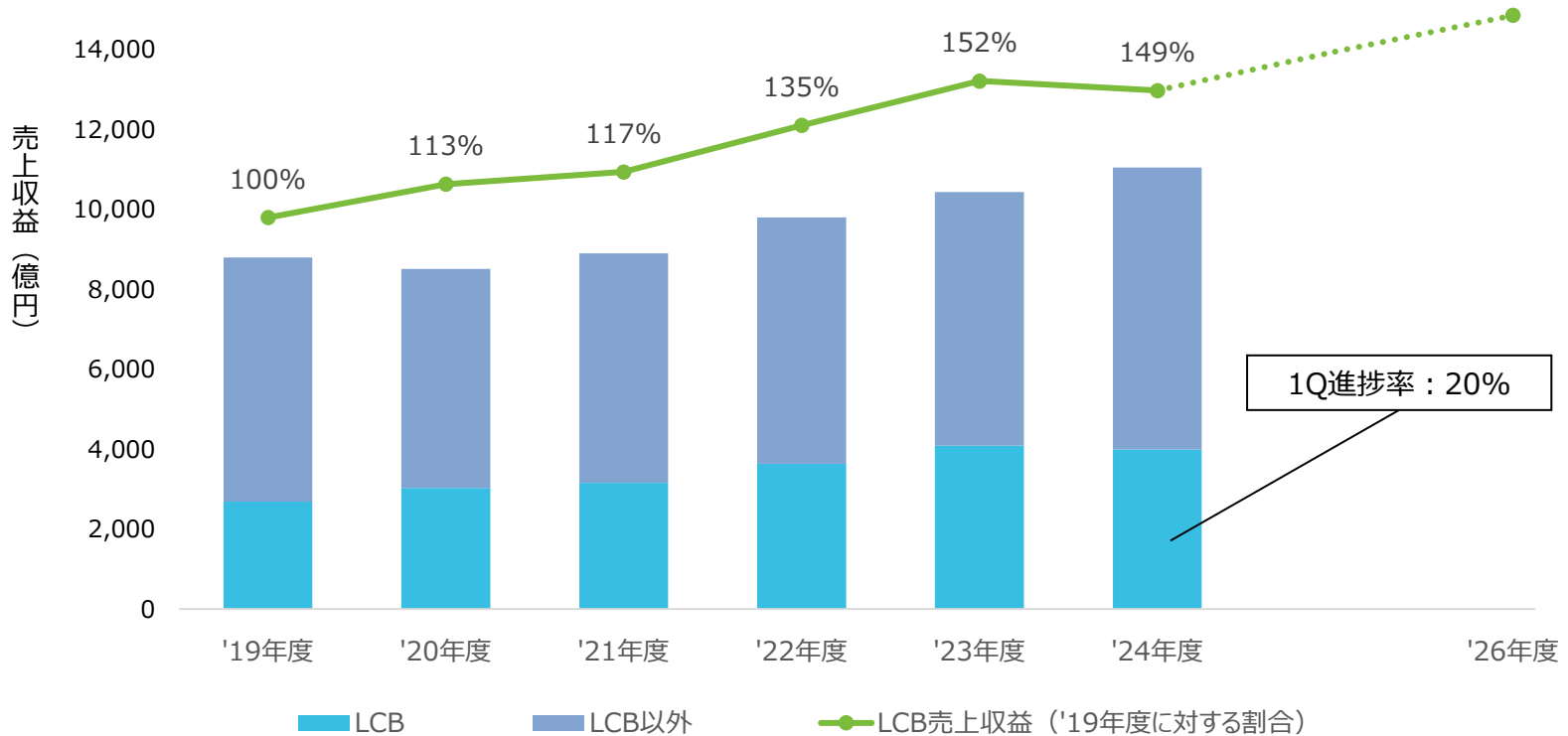
(※) '23年度は、PW1100G-JMエンジン追加検査プログラム影響を除く。  
'24年度1Qは、同プログラムに関して為替評価替のみ含む。

	本体比率	スぺアパーツ比率
'23年度実績	37%	58%
'24年度1Q実績	37%	57%
'24年度見通し	40%	55%

# 2024年度 連結業績見通し

## 中核事業におけるライフサイクルビジネス（LCB）の状況

(※) 中核事業：資源・エネルギー・環境，社会基盤，産業システム・汎用機械分野



### <ポイント>

- LCBは安定的に拡大（'19年度比50%増）しているが，当年度は案件の端境期にあり一時的に減少
- 当四半期においては，概ね予定どおりの進捗
- '25年度以降のさらなる拡大を目指し，お客さまの上流・下流，あるいはお客さまの周辺機器にも展開し，成長を加速



# Appendix

# 報告セグメント別内訳 (2023年度1Q vs 2024年度1Q)

(単位: 億円)	受注高			受注残高			売上収益			営業利益 (率)		
	'23年度1Q	'24年度1Q	増減	'23年度末	'24年度1Q末	増減	'23年度1Q	'24年度1Q	増減	'23年度1Q	'24年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	917	618	▲298	4,834	4,556	▲277	851	993	142	1 (0.1%)	6 (0.7%)	5 (0.6pts)
社会基盤	330	427	97	2,102	2,158	56	340	359	19	▲12 (▲3.6%)	1 (0.4%)	13 (4.0pts)
産業システム・汎用機械	1,140	1,212	72	2,054	2,168	113	1,002	1,103	101	25 (2.5%)	5 (0.5%)	▲19 (▲2.0pts)
航空・宇宙・防衛	743	1,007	263	4,509	4,497	▲12	782	1,000	218	93 (12.0%)	238 (23.8%)	144 (11.8pts)
報告セグメント合計	3,131	3,265	134	13,500	13,381	▲119	2,975	3,457	481	108	252	144
その他	146	140	▲5	223	241	18	97	100	2	0	1	1
調整額	▲123	▲119	4	-	-	-	▲88	▲76	12	▲19	▲16	3
合計	3,154	3,287	132	13,723	13,622	▲100	2,984	3,481	497	89 (3.0%)	238 (6.8%)	149 (3.8pts)
海外	1,824	1,727	▲96	3,441	3,119	▲322	1,670	2,155	484			
海外比率	58%	53%	▲5pts	25%	23%	▲2pts	56%	62%	6pts			

# 報告セグメント別営業利益増減要因（2023年度1Q vs 2024年度1Q）

(単位：億円)	事業環境の変化	LCBの拡大	コスト構造の強化	為替の変動	販管費の変動	事業構造改革	その他の損益の増減	合計
資源・エネルギー・環境		▲2	4	4	▲2		2	5
社会基盤			18				▲4	13
産業システム・汎用機械			▲24	3	▲4		5	▲19
航空・宇宙・防衛	172		25	53	▲7			144
PW1100G-JMIエンジン 追加検査プログラム為替影響				▲98				
<b>報告セグメント合計</b>	172	▲2	23	▲38	▲13	-	3	144
その他							2	1
調整額					3			3
<b>合計</b>	172	▲2	23	▲38	▲10	-	5	149

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

販管費の変動とその他の損益の増減では為替の変動などを除いている。

# 報告セグメント別内訳 (前回見通し vs 今回見通し)

(単位：億円)	受注高				売上収益				営業利益			
	'23年度	'24年度 前回見通し	'24年度 今回見通し	増減 今回 - 前回	'23年度	'24年度 前回見通し	'24年度 今回見通し	増減 今回 - 前回	'23年度	'24年度 前回見通し	'24年度 今回見通し	増減 今回 - 前回
資源・エネルギー・環境	3,101	4,000	4,000	-	4,049	4,200	4,200	-	177	280	280	-
社会基盤	1,593	1,800	1,800	-	1,709	1,700	1,700	-	150	210	210	-
産業システム・汎用機械	4,748	4,800	4,800	-	4,661	4,700	4,700	-	127	220	220	-
航空・宇宙・防衛	4,237	6,600	6,600	-	2,704	5,400	5,400	-	▲1,028	660	660	-
報告セグメント合計	13,681	17,200	17,200	-	13,125	16,000	16,000	-	▲573	1,370	1,370	-
その他	584	500	500	-	560	500	500	-	44	10	10	-
調整額	▲496	▲500	▲500	-	▲460	▲500	▲500	-	▲172	▲280	▲280	-
合計	13,768	17,200	17,200	-	13,225	16,000	16,000	-	▲701	1,100	1,100	-

前回見通しから変更なし

# 報告セグメント別営業利益増減要因（前回見通し vs 今回見通し）

(単位：億円)	事業環境の 変化	LCBの 拡大	コスト構造の 強化	為替の 変動	販管費の 変動	事業構造 改革	その他の 損益の増減	合計
資源・エネルギー・環境								-
社会基盤								-
産業システム・汎用機械								-
航空・宇宙・防衛								-
<b>報告セグメント合計</b>	-	-	-	-	-	-	-	-
その他								-
調整額								-
<b>合計</b>	-	-	-	-	-	-	-	-

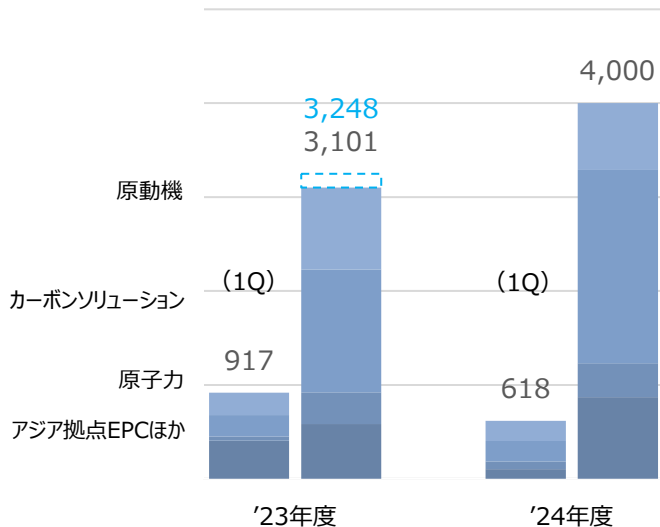
報告セグメント別、要因別ともに前回見通しから変更なし

# 報告セグメント別決算実績・見通し <資源・エネルギー・環境>

(単位：億円)

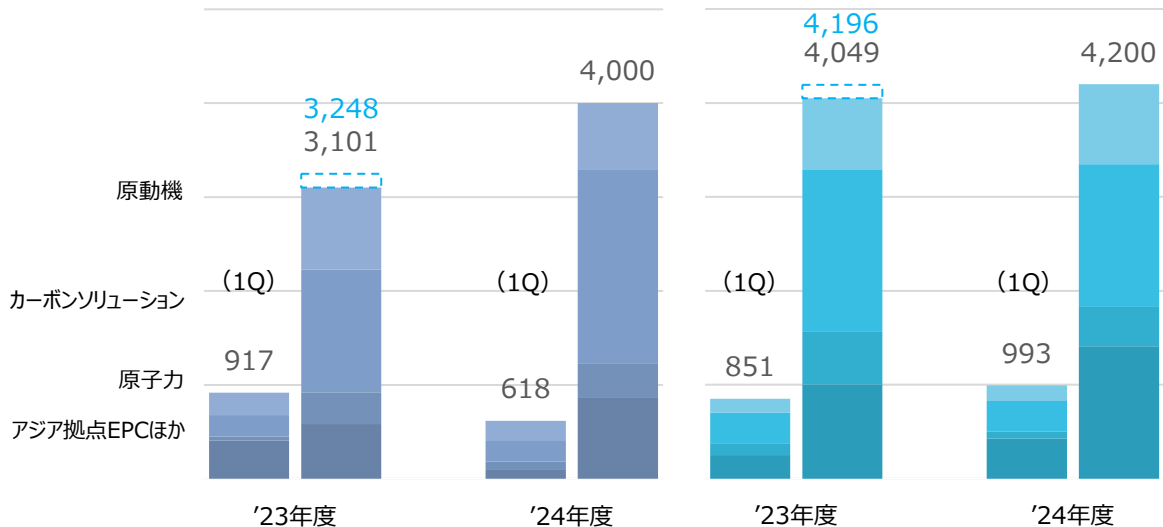
## 受注高

(通期) (通期)



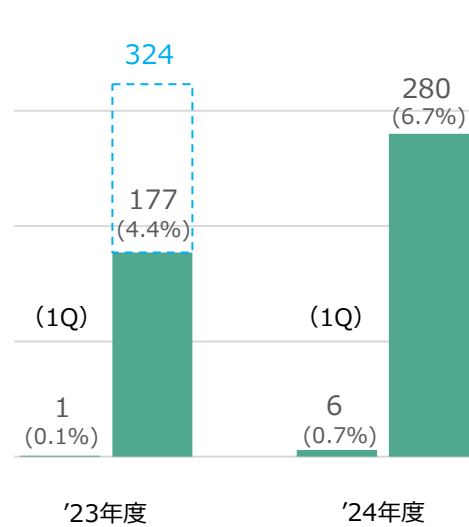
## 売上収益

(通期) (通期)



## 営業利益

(通期) (通期)



## 受注高

## 売上収益

	受注高				売上収益			
	'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期	'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期
原動機	237	872	213	710	147	760	167	850
カーボンソリューション	228	1,309	218	2,060	328	1,718	322	1,520
原子力	45	336	82	360	126	568	74	420
アジア拠点EPCほか	407	584	105	870	250	1,003	430	1,410
<b>合計</b>	<b>917</b>	<b>3,101</b>	<b>618</b>	<b>4,000</b>	<b>851</b>	<b>4,049</b>	<b>993</b>	<b>4,200</b>

## ポイント (対前年同期の実績)

### 受注高

・アジア拠点EPCで前期に受注した大型案件の反動により減少

### 売上収益

・原子力で減収となったものの、原動機やアジア拠点EPCで増収

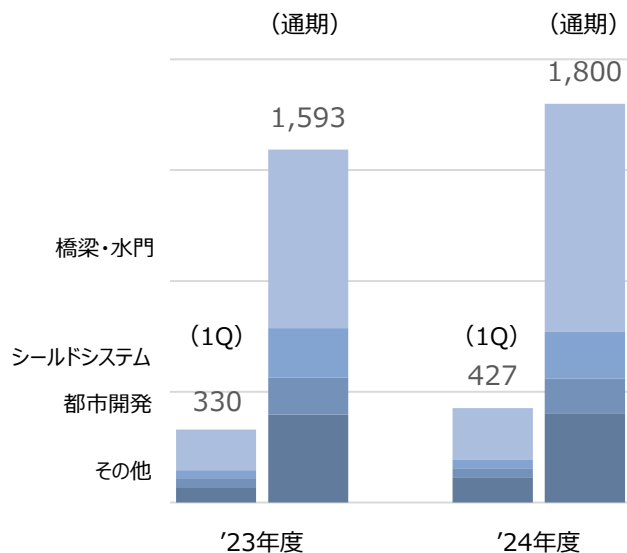
### 営業利益

・前年同期並みの利益を確保

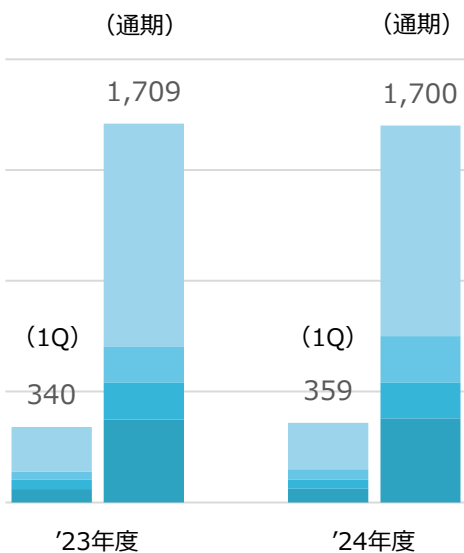
# 報告セグメント別決算実績・見通し <社会基盤>

(単位：億円)

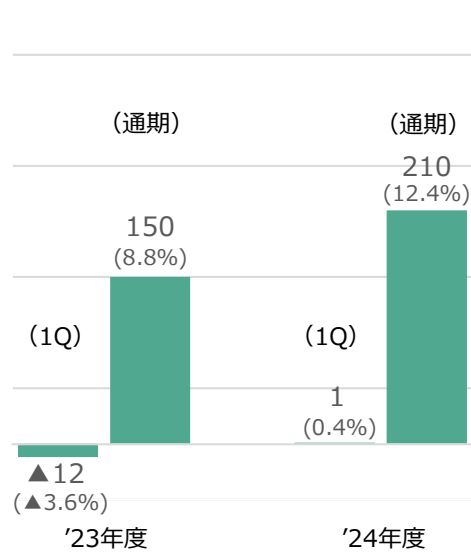
## 受注高



## 売上収益



## 営業利益



### 受注高

### 売上収益

	受注高				売上収益			
	'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期	'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期
橋梁・水門	184	805	235	1,030	202	1,005	209	950
シールドシステム	35	225	37	210	36	165	48	210
都市開発	41	166	40	160	41	166	40	160
その他	70	397	115	400	61	373	62	380
<b>合計</b>	<b>330</b>	<b>1,593</b>	<b>427</b>	<b>1,800</b>	<b>340</b>	<b>1,709</b>	<b>359</b>	<b>1,700</b>

### ポイント（対前年同期の実績）

#### 受注高

・橋梁・水門，交通システムを中心に増加

#### 売上収益

・橋梁・水門やシールドシステムで増収

#### 営業利益

・橋梁・水門で，請負金増額による採算改善により増益

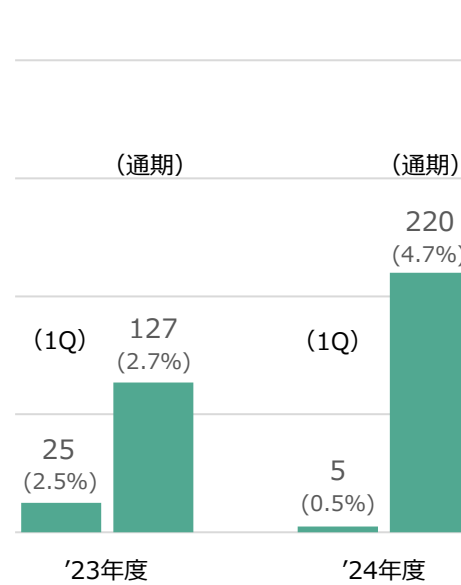
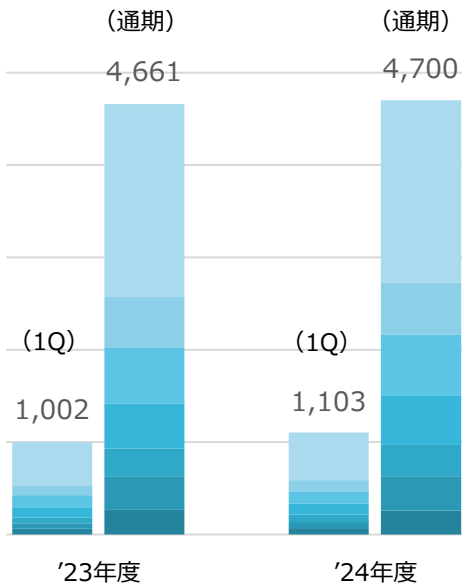
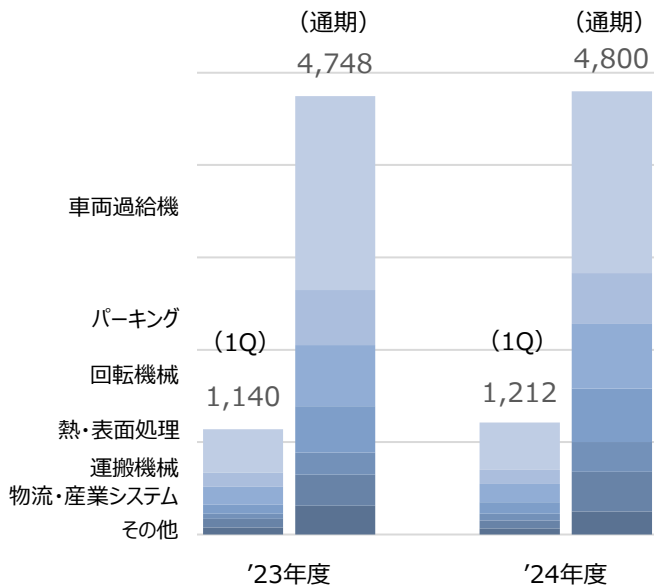
# 報告セグメント別決算実績・見通し <産業システム・汎用機械>

(単位：億円)

## 受注高

## 売上収益

## 営業利益



受注高			
'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期

売上収益			
'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期

## ポイント (対前年同期の実績)

### 受注高

・車両過給機や熱・表面処理で増加

### 売上収益

・車両過給機や熱・表面処理などで増収

### 営業利益

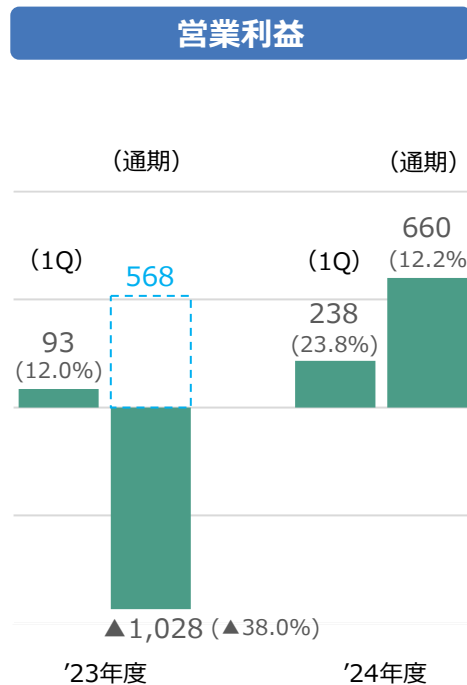
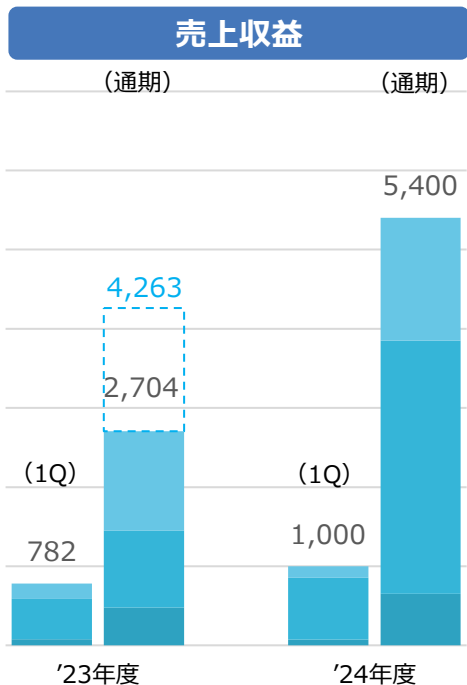
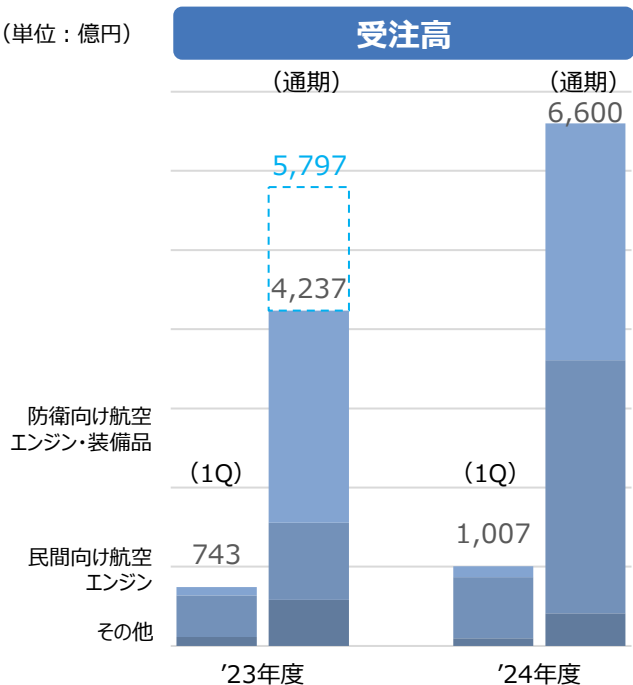
・車両過給機における一部プロジェクトでの販売価格交渉の進捗遅れに伴う採算悪化により減益

車両過給機	469	2,103	514	1,970	469	2,090	513	1,970
パーキング	155	595	152	550	108	546	124	570
回転機械	196	660	197	700	139	609	130	660
熱・表面処理	96	503	123	580	104	483	122	530
運搬機械	56	241	74	320	62	304	79	340
物流・産業システム	93	334	86	430	60	355	68	370
その他	75	312	66	250	60	274	67	260
合計	1,140	4,748	1,212	4,800	1,002	4,661	1,103	4,700



# 報告セグメント別決算実績・見通し <航空・宇宙・防衛>

(単位：億円)



	受注高			
	'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期
防衛向け航空エンジン・装備品	104	2,684	142	2,990
民間向け航空エンジン	528	973	770	3,200
その他	111	580	95	410
合計	743	4,237	1,007	6,600

	売上収益			
	'23/1Q	'23通期	'24/1Q	'24通期
防衛向け航空エンジン・装備品	193	1,254	148	1,550
民間向け航空エンジン	511	970	777	3,200
その他	78	480	75	650
合計	782	2,704	1,000	5,400

### ポイント (対前年同期の実績)

**受注高・売上収益**

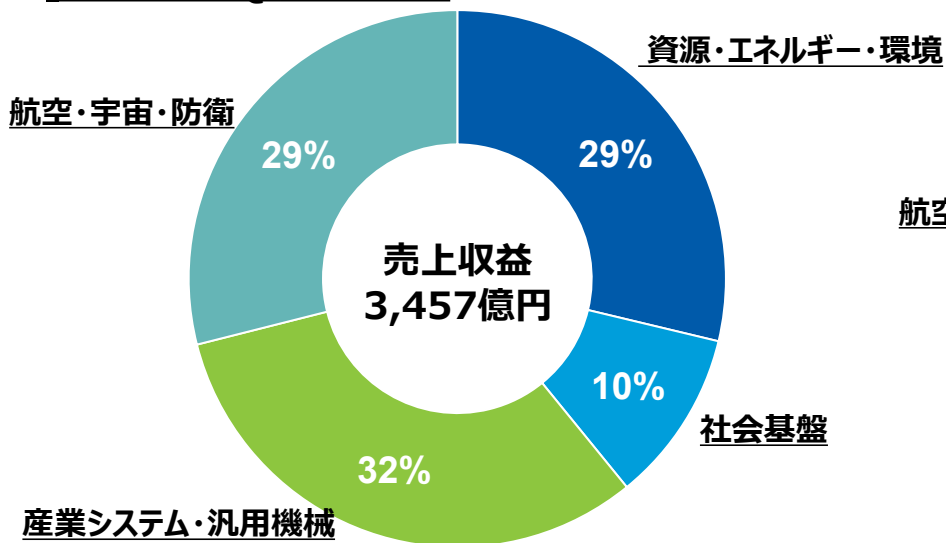
- 民間向け航空エンジンで、新製エンジンやスペアパーツの販売増加により増加

**営業利益**

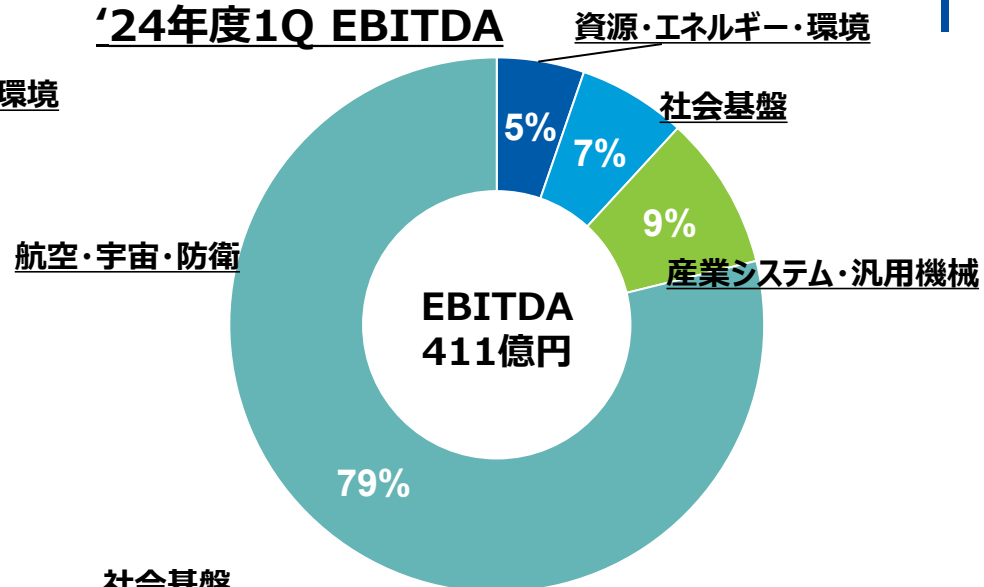
- 民間向け航空エンジンで、スペアパーツの取扱高が増加したほか、アフターマーケット費用の発生後ろ倒しの影響により増益
- PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムに関する為替評価替えによる影響▲98億円を含む

# 報告セグメント別売上収益・営業利益・EBITDA

## '24年度1Q 売上収益

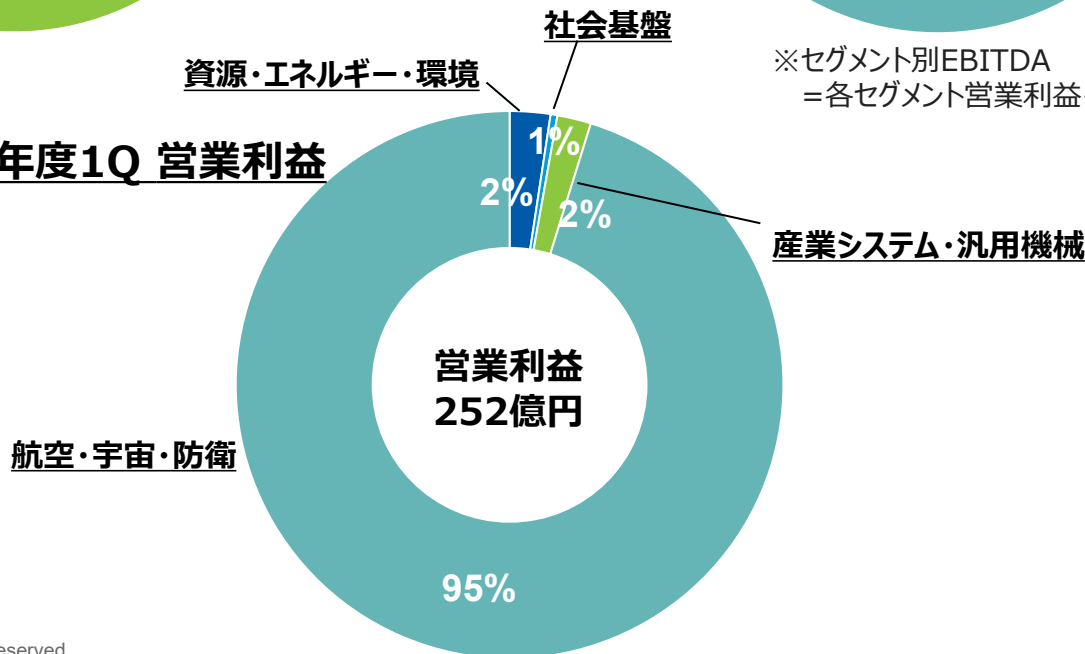


## '24年度1Q EBITDA

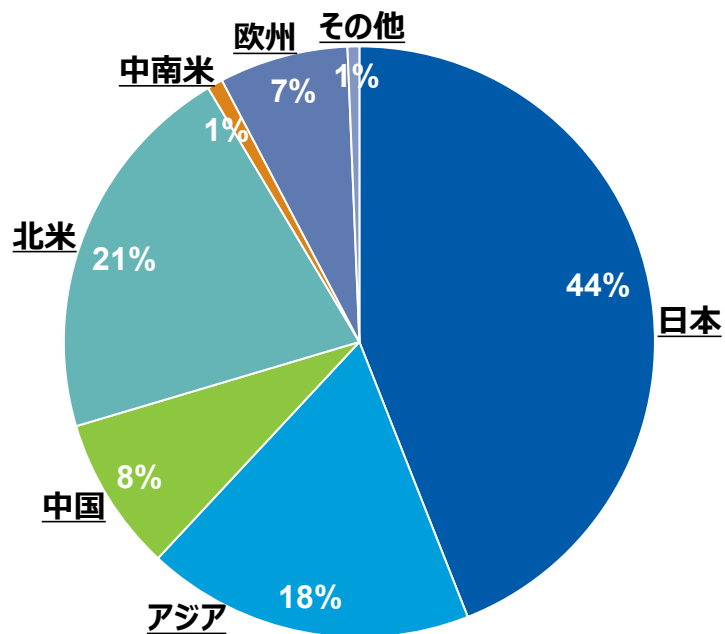


※セグメント別EBITDA  
=各セグメント営業利益+各セグメント減価償却費

## '24年度1Q 営業利益

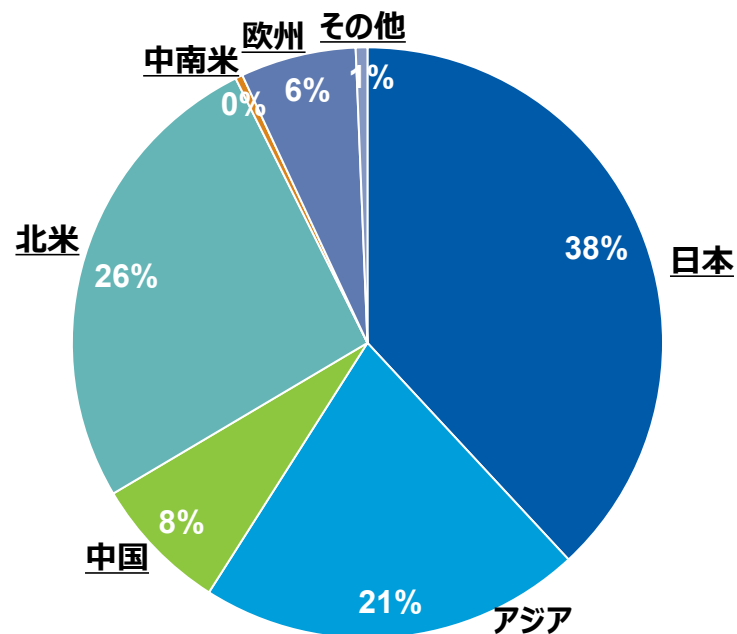


## '23年度1Q



海外売上収益 1,670億円

## '24年度1Q



海外売上収益 2,155億円

(単位：億円)	'23年度末	'24年度1Q末	増減
<b>資産合計</b>	20,978	21,428	450
うち現金及び現金同等物	1,388	1,177	▲211
うち営業債権，契約資産	5,833	5,762	▲71
うち棚卸資産	4,222	4,787	564
<b>負債合計</b>	16,955	17,176	221
うち営業債務等	2,585	2,460	▲125
うち契約負債	2,041	2,246	204
うち返金負債	1,926	1,908	▲18
うち有利子負債	5,743	5,764	21
社債および借入金	4,491	4,490	▲1
リース負債	1,252	1,274	22
<b>資本合計</b>	4,022	4,251	229
親会社の所有者に帰属する持分	3,759	3,993	233
非支配持分	262	258	▲4
<b>負債及び資本合計</b>	20,978	21,428	450

# キャッシュ・フロー，研究開発，設備投資の状況（2023年度1Q vs 2024年度1Q） IHI

(単位：億円)	'23年度1Q	'24年度1Q	増減
税引前四半期利益	127	316	189
減価償却費	169	173	3
その他	▲38	▲78	▲40
<b>EBITDA</b>	<b>258</b>	<b>411</b>	<b>152</b>
PW1100G-JMエンジン追加検査プログラム関連支出（※1）	-	▲29	▲29
運転資本増減（※2）	▲615	▲249	366
その他	▲238	▲88	149
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>▲595</b>	<b>44</b>	<b>639</b>
投資キャッシュ・フロー	▲138	▲121	17
フリーキャッシュ・フロー	▲734	▲77	656
財務キャッシュ・フロー	554	▲167	▲721

(単位：億円)	'23年度1Q	'24年度1Q	増減
研究開発費	70	67	▲2
設備投資額	131	163	31
減価償却費	169	173	3

（※1）PW1100G-JMエンジン追加検査プログラム関連支出は，従来の運転資本の増減と区別して記載。

（※2）運転資本増減は，営業債権/契約資産/棚卸資産/前払金/契約負債/営業債務/返金負債の増減額を示す。  
 運転資本 = 営業債権 + 契約資産 + 棚卸資産 + 前払金 - 契約負債 - 営業債務 - 返金負債

（次ページも同様）

# キャッシュ・フロー，研究開発，設備投資の状況（前回見直し vs 今回見直し）

(単位：億円)	'23年度	'24年度 前回見直し	'24年度 今回見直し	増減 今回 - 前回
税引前当期利益	▲722	1,000	1,000	-
減価償却費	707	700	700	-
PW1100G-JMエンジン追加検査 プログラム損失計上見合い	1,559	-	-	-
その他	205	100	100	-
<b>EBITDA</b>	(※1) 1,750	1,800	1,800	-
PW1100G-JMエンジン追加検査 プログラム関連支出 (※2)	-	▲500	▲500	-
運転資本増減	▲1,010	▲430	▲430	-
その他	▲117	▲120	▲120	-
営業キャッシュ・フロー	621	750	750	-
投資キャッシュ・フロー	▲516	▲900	▲900	-
フリーキャッシュ・フロー	104	▲150	▲150	-

(単位：億円)	'23年度	'24年度 前回見直し	'24年度 今回見直し	増減 今回 - 前回
研究開発費	393	400	400	-
設備投資額	712	960	960	-
減価償却費	707	700	700	-

(※1) E&C訴訟和解影響，PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムに関する損失計上を除く。

(※2) PW1100G-JMエンジン追加検査プログラム関連支出は，従来の運転資本の増減と区別して記載。

# 主要な経営指標の推移

	日本基準	IFRS						
	'18年度	'19年度	'20年度	'21年度	'22年度	'23年度	'24年度1Q	'24年度 (見通し)
受注高	13,992億円	12,800億円	10,970億円	12,612億円	13,661億円	13,768億円	3,287億円	17,200億円
売上収益	14,834億円	12,631億円	11,129億円	11,729億円	13,529億円	13,225億円	3,481億円	16,000億円
営業利益	824億円	478億円	279億円	814億円	819億円	▲ 701億円	238億円	1,100億円
親会社の所有者に帰属する 当期利益	398億円	82億円	130億円	660億円	445億円	▲ 682億円	185億円	600億円
EBITDA	782億円	954億円	923億円	911億円	1,511億円	(※)1,750億円	411億円	1,800億円
営業CF	464億円	424億円	363億円	1,141億円	541億円	621億円	44億円	750億円
投資CF	▲ 792億円	▲ 855億円	▲ 404億円	279億円	▲ 523億円	▲ 516億円	▲ 121億円	▲ 900億円
FCF	▲ 328億円	▲ 430億円	▲ 41億円	1,420億円	17億円	104億円	▲ 77億円	▲ 150億円
配当	70円/株 (中間30円, 期末40円)	50円/株 (中間30円, 期末20円)	0円/株	70円/株 (中間30円, 期末40円)	90円/株 (中間40円, 期末50円)	100円/株 (中間50円, 期末50円)	-	100円/株 (中間50円, 期末50円)
営業利益率	5.6%	3.8%	2.5%	6.9%	6.1%	▲ 5.3%	6.8%	6.9%
ROIC	8.7%	4.1%	2.2%	6.4%	6.3%	▲ 4.9%	-	8.3%
ROE	11.8%	2.8%	4.5%	19.3%	11.0%	▲ 16.9%	-	15.5%
CCC	97日	92日	124日	112日	120日	(※) 132日	-	129日
D/Eレシオ	0.93倍	2.00倍	1.85倍	1.24倍	1.14倍	1.43倍	1.36倍	1.41倍
親会社所有者帰属 持分比率	21.0%	15.0%	16.4%	20.3%	22.2%	17.9%	18.6%	19.3%

ROIC：(営業利益+受取利息・配当金) 税引後 / (親会社の所有者に帰属する持分+有利子負債)

ROE：親会社の所有者に帰属する当期利益 / 親会社の所有者に帰属する持分

CCC：運転資本 / 売上収益 × 365日

D/Eレシオ：有利子負債 / 資本合計

親会社所有者帰属持分比率：親会社の所有者に帰属する持分 / 負債・資本合計

(※) E&C訴訟和解影響、PW1100G-JMエンジン追加検査プログラムに関する損失計上を除く

# 民間向け航空エンジン 売上収益・機種別累計販売台数推移

	日本基準					IFRS							主要搭載機
	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24		
											1Q	(見通し)	
売上収益 (億円)	2,670	2,991	2,915	2,810	3,185	2,224	1,017	1,233	2,014	970	777	3,200	
累計販売台数 (台)													
V2500	6,469	6,896	7,236	7,508	7,688	7,735	7,740	7,756	7,776	7,782	7,787		エアバス A319/320/321
GE90	2,039	2,257	2,457	2,617	2,715	2,824	2,885	2,925	2,968	3,029	3,044		ボーイング B777
CF34	4,156	4,471	4,821	5,085	5,331	5,611	5,798	5,926	6,085	6,201	6,231		リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx	751	1,035	1,295	1,542	1,826	2,159	2,328	2,425	2,494	2,577	2,588		ボーイング B787/B747-8
PW1100G		16	148	398	1,058	1,784	2,144	2,585	3,146	3,821	3,986		エアバス A320neo
Passport20				13	66	142	202	269	335	406	426		ボンバルディア Global7500
合計	13,415	14,675	15,957	17,163	18,684	20,255	21,097	21,886	22,804	23,816	24,062	25,214	
単年度販売台数 (台)	1,352	1,260	1,282	1,206	1,521	1,571	842	789	918	1,012	246	1,398	

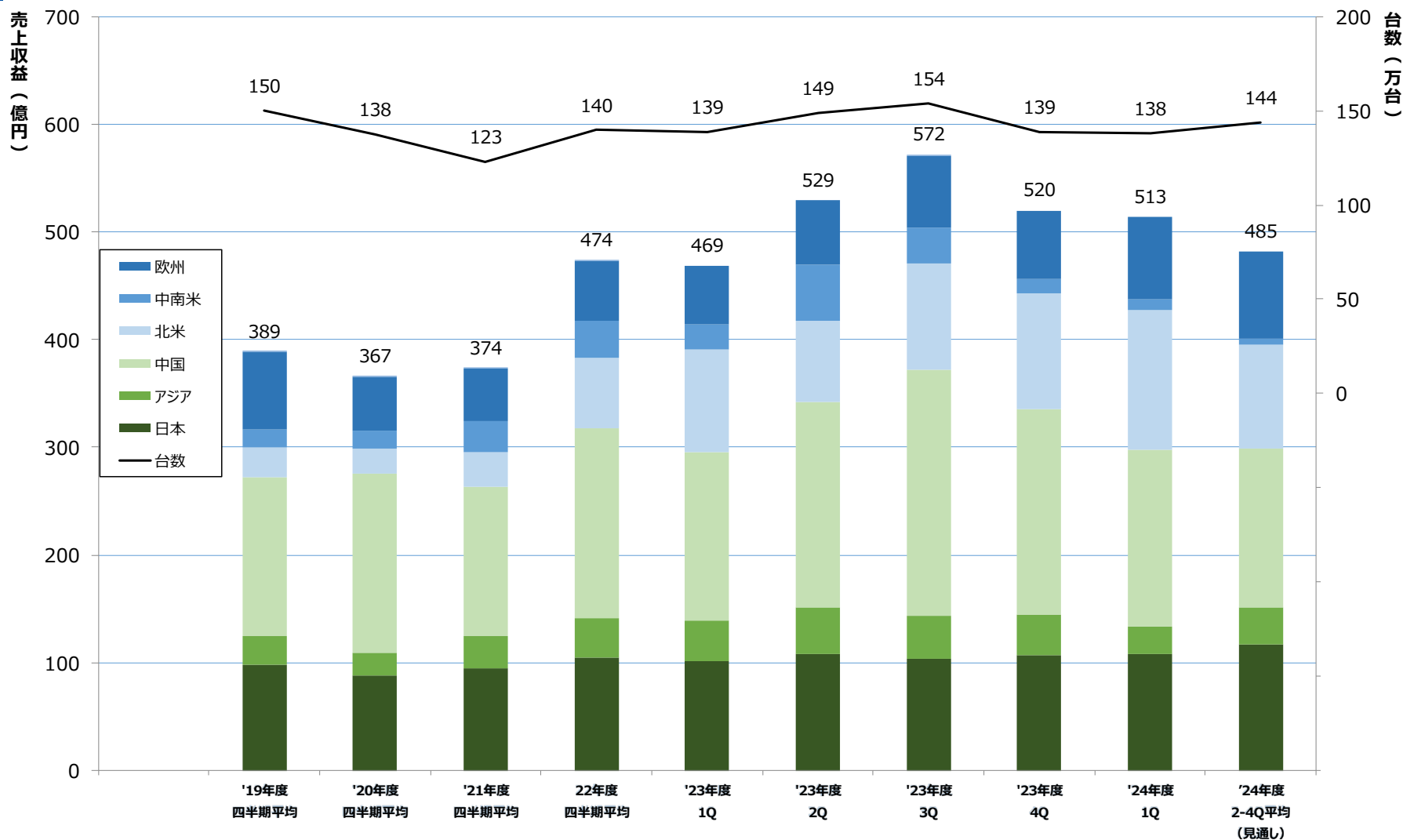
販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なる。



# 車両過給機 地域別売上収益・販売台数推移

(単位：億円)	日本基準					IFRS							
	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24		
											1Q	(見通し)	
日本	375	346	389	398	446	391	354	380	418	421	108	460	
アジア	275	216	158	117	110	107	85	118	149	158	26	130	
中国	243	249	485	719	631	572	665	554	702	766	164	610	
北米	18	24	33	84	116	108	90	131	264	378	130	420	
中南米	7	34	61	74	75	66	69	115	138	121	10	30	
欧州	756	743	617	811	513	289	199	195	223	245	76	320	
その他	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	
<b>合計</b>	<b>1,677</b>	<b>1,616</b>	<b>1,746</b>	<b>2,205</b>	<b>1,895</b>	<b>1,536</b>	<b>1,466</b>	<b>1,494</b>	<b>1,895</b>	<b>2,090</b>	<b>513</b>	<b>1,970</b>	
販売台数 (万台)	589	536	610	790	676	600	551	492	559	581	138	570	

# 車両過給機 地域別売上収益・販売台数推移



## (1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(単位：億円)	日本基準					IFRS						
	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	
											1Q	(見通し)
賃貸収入	93	101	93	92	93	94	123	121	122	120	30	123

## (2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績

(単位：億円)	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'24年度1Q	30	13	9	6

# 豊洲1～3丁目地区 開発マップ

**豊洲4-2街区開発計画**  
敷地面積：19,493㎡  
2022年7月着工～2025年6月竣工予定

**アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX**  
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡  
2006年10月開業

**豊洲ハイツクロスタワー (A棟)**  
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡  
2020年3月竣工

C棟



**豊洲フロシア**  
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡  
2014年7月竣工

**豊洲フロント**  
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡  
2010年8月竣工

**豊洲センタービルアネックス**  
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡  
2006年8月竣工

**豊洲センタービル**  
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡  
1992年10月竣工

豊洲センタービル

同アネックス

## JERA碧南火力発電所における燃料アンモニア転換実証試験の終了について



IHIは、JERAおよびNEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)とともに取り組んでいる、NEDOの助成事業である「カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／アンモニア混焼火力発電技術研究開発・実証事業」にて、世界初となる大型石炭火力発電機における燃料アンモニアの大規模転換実証試験(熱量比20%)を終了しました。本実証試験では、定格出力100万kW運転において燃料アンモニアの20%転換を達成するとともに、燃料アンモニア転換前と比較して、窒素酸化物(NOx)は同等以下、硫黄酸化物(SOx)は約20%減少したことを確認しています。また、運用性においても燃料アンモニア転換前と同等であることを確認しました。

本事業で得られた成果をもとに、火力発電所におけるアンモニア50%以上の高比率燃焼技術の確立や100%燃焼バーナの開発に取り組めます。

<左図：アンモニア20%燃焼の様子（正面視窓より）>

## CO<sub>2</sub>を原料とする持続可能な航空燃料(SAF)合成技術開発に向けて小型スケールのSAF製造試験装置の設置を決定～世界トップレベルの性能を有する合成技術開発を次のステージへ～

IHIは、シンガポール科学技術研究庁傘下の研究機関であるISCE<sup>2</sup>(Institute of Sustainability for Chemicals, Energy and Environment)とともに持続可能な航空燃料(SAF)の合成技術の開発に取り組んでおり、このたび、水素とCO<sub>2</sub>からSAFの原料となる液体炭化水素を合成する一連のプロセスを検証するための試験装置を設置し、1日当たり100kgのCO<sub>2</sub>を注入する小型スケールでの試験を年内に開始することが決定しました。

IHIとISCE<sup>2</sup>は、2022年にSAF合成の新触媒を開発し、これまでのラボ試験において世界トップレベルの性能を持つことを確認しています。このたび、新たに設置する試験装置にて、触媒の性能や耐久性評価を行います。さらに、合成プラントの運転条件の最適化や反応器データの取得などを行い、プロセス全体の検証を進めてまいります。



<試験装置の設置イメージ>

## F-35戦闘機搭載エンジン部品を米国Pratt & Whitney社向けに初出荷 ～防衛事業におけるグローバル展開を強化～



<出荷した部品が搭載されるF135エンジン>

IHIは、航空自衛隊でも運用されている最新鋭戦闘機「F-35」に搭載される「F135エンジン」の構成部品の一つである第1段ファン一体型ローターのグローバル向け量産初品を相馬工場で製造し、米国Pratt & Whitney社(P&W)に向けて4月26日に出荷しました。本部品は、最先端の接合技術が使用される高付加価値部品で、この製造能力を有する企業はP&Wのほか世界で当社だけであることから今回の部品供給が実現しました。

今回の出荷は今後の生産増加に向けた重要なマイルストーンです。引き続きP&Wと協力して高品質な製品を提供し、全世界の同機ユーザー国の運用を支援するとともに、防衛事業における競争力を強化し、グローバル展開を進めてまいります。

## 橋梁などインフラ構造物の点検・診断をサポートする2つのツールを開発 ～点検・診断品質の向上、業務効率化、コスト削減～

IHIとIHIインフラシステム、IHIインフラ建設は、橋梁などのインフラ構造物の点検や診断作業をサポートする2つのツールを開発し、サービスを開始しました。

1. 橋梁定期点検の効率化を支援するスマートフォンシステム  
「スマホ点検士®」(デバイスリース)
2. コンクリート劣化要因のAI診断+専門家がチェックと対策工法を選定する  
「AIcon診断サービス」(受託サービス)

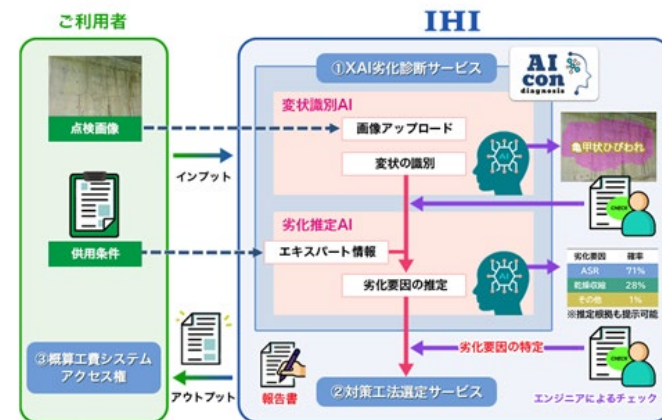
高度経済成長期に急ピッチで整備されたインフラ構造物の老朽化は深刻な課題となっています。とくに橋梁など道路構造物における点検・診断現場は、技術者不足が予想され、新技術を活用した業務の効率化および成果の品質向上が求められています。

IHIグループは、鋼製およびコンクリート製橋梁の新設・保全事業で培ってきた橋梁技術にICTやAI技術を組み合わせることで、これらの社会課題を解決し、インフラ構造物の維持管理業務のDX化を促進する技術開発に取り組めます。

<右図：「AIcon診断サービス」のフロー>



<上図：「スマホ点検士」の契約およびリース品提供>



# IHI

Realize your dreams

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際に業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。